

# 研究所だより

編集・発行

千葉県長生地方教育研究所  
茂原市東郷富士見2300-1TEL 0475(24)9721・FAX 0475(23)4820  
H P <http://www.choseikaikan.or.jp/>  
メール [kenkyujo@beach.ocn.ne.jp](mailto:kenkyujo@beach.ocn.ne.jp)

## 「一宮町の教育を考える」

一宮町長 玉川 孫一郎

### ◆体験&思い

はじめに私の小学校時代の体験をお話します。私が入学したのは、長生村の一松小学校ですが、卒業したのは一宮小学校です。小学2年生の時に、昭和の大合併があり、私の住んでいた地区が一松村から分村し、隣の一宮町に編入され、それに伴い2学期から一宮小学校に転校することになったのです。なかなか一宮町への分村が村議会で認められなかったために、私の地区は、同盟休校という思い切った戦術をとり世論に訴えることになりました。

登校を拒否し、地区の鎮守様の御堂で寺子屋形式の授業を行うというものです。きちんとした時間割もなく、学校とは違って何もかも自由で不思議な空間でした。

同盟休校は新聞でも大きく取り上げられ、県が間に入って住民投票が実施され、一宮町への編入が認められました。

寺子屋授業は短期間で終わりましたが、私にとっては忘れられない思い出です。

人口の減少の中で、今地方の再生が大きな課題になっていますが、

- 1日を楽しみなければ花を活けよ
- 1年を楽しみなければ花を植えよ
- 50年を楽しみなければ木を植えよ
- 100年を楽しみなければ人を育てよ

という言葉があるそうです。私は、より良い国を作るのも、より良い町を作るのも基本は人づくりだと考えて、厳しい財政状況の中でも、教育環境の整備には、最優先で取り組んでまいりました。

私が特に重視するのは、生まれた町、住んでいる町に誇りや愛着を持つ人に育ってほしいということです。一度地元を離れても、再び故郷に戻ってくるように、町の歴史、伝統、文化をしっかり教育して一宮町が大好きだという子どもを育ててもらいたいと考えています。

### ◆教育施策

本題であります当町の教育につきましては、【確かな学力・豊かな心・健やかな体】の調和を重視した【「生きる力」の育成】をテーマに、みんなで取り組む「教育立県ちば」プラン及び一宮町の「まちづくりの将来像」に基づいて学校・家庭・地域社会が連携を深め、「時代のニーズに即応し、社会の変化に主体的に対応できる個性豊かな人間の育成」を目指して、児童生徒の教育環境の整備充実及び町民の学びが生きる地域づくりを通して重層的で緊密な協働関係を構築することを基本理念として、教育施策に取り組んでいます。

### ◆学校教育の推進：具体的な取り組み

#### ①【わかる授業】

教職員の授業力アップ研修の実施、外国語指導助手(ALT)や少人数加配講師及び町の非常勤講師の配置によるきめ細かな学習指導で児童生徒がわかる授業の推進。

#### ②【サマースクール】

小学生の学力向上と学習習慣の確立という2つのね

らいのもと、地域の高校生や大学生ボランティアによる個別指導型「サマースクール」の開催。

#### ③【高校生出前交流】

地元一宮商業高校の生徒の出前交流による「コンピュータ基礎学習」の実施。

#### ④【体験学習・地域文化伝承】

町のまちづくり推進団体やサーファー組合等による体験型学習や民俗芸能の伝承等の実施。

#### ⑤【学校支援事業】

図書室支援員・情報教育支援員・特別支援教育支援員の配置。

#### ⑥【一宮町チャレンジクラブ】

親子協働による活動で、ともに学び・成長することを習得させ学校生活や家庭生活で活用できる取り組み。

#### ⑦【小・中学生と町長が町づくりを語る会】

快適で住み良い町づくりのために、児童生徒たちの夢や希望を提言してもらい、対応できるものはできる限り実行することにより、町づくりへの関心を高め、ふるさとへの愛着を育む。

#### ⑧【いじめ対策】

「自他の生命」を大切にすることを育ませ、いじめや暴力行為の防止を明確にするため、昨年9月に「一宮町いじめ防止対策推進条例」を制定。具体的な取り組みとして教育委員会及び各小中学校において、それぞれ学校いじめ防止基本方針を策定していじめ等防止に実効性のある体制を擁立。

#### ⑨【中学生海外交流研修】

世界に羽ばたく国際人の育成を目指し、平成25年度から近隣3町村の中学生合同によるオーストラリアへの海外交流研修を実施。

### ◆社会教育の推進：具体的な取り組み

生涯学習の拠点として公民館において、現在6教室の公民館教室を展開し、サークルは多種多様な43団体も自主サークルが活発に活動しています。

体育協会は町におけるスポーツ諸団体を統括し、社会教育の振興、そして町民のスポーツ精神を養い、体力の向上、青少年の健全育成、町民の健康維持管理に努めています。現在は専門部が18部門あります。また、町の総合型地域スポーツクラブである「エンジョイスportsクラブ」の運営活動を担っており、町民の体力作りや健康を支援し、世代や性別を超えた町民同士のコミュニケーションに取り組んで頂いています。

### ◆これからの新たなる取り組み

- ①土曜授業としてサタデースクール開設
- ②大学生への支給型奨学金制度創設
- ③老朽化が進む社会教育施設や体育施設の対策

### ◆結び

学校・家庭・地域で「ふれる」「かかわる」そして「つながる」を合言葉に、将来の日本や町の担い手となり世界に羽ばたく若者たちのために、魅力ある『一宮町のふるさと創生』に励みます。





## 「読書教育の推進について」

千葉県教育庁東上総教育事務所指導主事 渡邊 健二

### 1 はじめに

平成26年12月22日「千葉県子どもの読書活動推進計画(第三次)素案」が県ホームページに掲載されました。(以下、「素案」)

本素案では子どもの読書活動について「子どもは読書を通して、物語の主人公と一緒に未知の世界を体験するなど、本の世界の楽しさを知ります。やがて、主体的に物事を考え、判断し、情報が氾濫する社会の中で、その真偽や価値を見抜き、有益に活用するなど、生きていくために必要な知識や技能を身に付けていきます。また、目的をもって本を読み、読書を豊かに生きるための手段とする場合がある一方で、本を読むこと自体に楽しみを感じるのも、読書の魅力です。」と述べています。本稿では、県の素案から学校に直接かわる部分や現場ですぐに活用できる活動などを中心に紹介します。

### 2 学校図書館の機能強化

平成20年9月の子どもの読書サポーターズ会議では「学校図書館の位置付けと機能・役割」を児童生徒の「読書センター」及び「学習・情報センター」としての機能と位置付けています。さらに、「学校図書館は『学校教育の中核』たる役割を果たすよう期待されている。」とも述べています。

学校図書館に期待されるものを「読書センター」としての機能と、「学習・情報センター」としての機能の2点から考えてみます。

#### 【読書センターとしての学校図書館】

素案でも「児童生徒の想像力を培い、学習に対する興味・関心等と呼び起こし、豊かな心を育む自由な読書活動や読書指導の場」となることがあげられています。多様な読書活動の場として学校図書館が機能している学校が増えています。今回注目したいのは、児童生徒が生き生きとした学校生活を送れるようにするため、また、**児童生徒のストレスの高まりや生徒指導上の諸問題へ対応するため、自由な読書活動の場である学校図書館が「心の居場所」としての機能を更に充実させていくことについて**触れられていることです。児童生徒のメンタルケアの場として学校図書館を活用していくことが今後求められてきます。

#### 【学習・情報センターとしての学校図書館】

図書館司書教諭を中心に、児童生徒の自発的、主体的な学習活動を支援し、教育課程の展開に寄与する役割を担うことが期待されます。児童生徒が自ら考え、主体的に判断し、行動できる資質や能力などの「生きる力」を育むために、学校図書館は様々な学習活動を支援します。「**学び方を学ぶ**」場としての**学校図書館の活用**についてもさらなる研究・実践を積み、課題を解決するために必要な資料を探したり、効果的な表現の方法を学んだり、まとめる方法を学んだりするための場として、様々な教科や場面で活用していきたいものです。

### 3 多様な読書活動の展開

読書意欲を高める取組として「読書活動の工夫例」が素案に4点あげられています。

#### ① ポップづくり

売場にある販売広告を作り、本を紹介する。

#### ② ブックトーク

テーマに沿って複数の本を紹介する。

#### ③ ビブリオバトル

本を紹介し、言葉の力や表現力を競う。

#### ④ アニマシオン

楽しく読書体験を積みながら読む力を伸ばすプログラム。

上記のほかにも「ブッククラブ」「リテラチャーサークル」など欧米で用いられている集団読書を取り入れた実践も学校現場で見られるようになってきました。読書活動も、学校や学級の実態、目的によって取り上げ方に多様性が求められています。教師自身がそれぞれの活動の特性を理解していないと児童生徒の効果的な学習活動を展開することが難しいので、「公共図書館主催の研修会に参加する、熱心な取組をしているボランティアサークルなどの協力を得て校内研修を実施する」など、様々な活動を体験し、方法を習得することも必要になってくるでしょう。

どのような読書活動を行う場合にも大切にしたいことがあります。それは「読む目的を明らかにする」ことです。特に、学校教育の一環として「読書活動」を取り入れる場合には、これは忘れることができません。目的が明らかになることで、児童生徒の主体的な読書活動が行われます。

例えば、単に「本を読んで紹介する」のではなく「お気に入りの冒険小説を友達に読んでもらうために一押し部分を紹介する」、「登場人物の〇〇になりきって新しい視点で紹介する」、「〇〇を読んで△△について意見を交換し合うことで新たな解釈に気づき、ポスターセッションで紹介する」など、児童生徒の発達段階に応じて多様な活動を展開することで、「思考し判断し表現する」読書活動の展開が可能となります。

### 4 おわりに

豊かな読書活動の展開が児童生徒の「生きる力」をはぐくむためには欠かせません。単独の学校図書館だけでは、蔵書数や取組に限りがあります。今後、蔵書のデータベース化を進め、**近隣の学校との情報共有や、公共図書館との連携**が更に必要となってきます。

また、家庭や地域での読書の取組も重要です。1000か所ミニ集会・PTA行事等を利用した広報・啓発により、日頃、児童生徒の生活を見守る多くの人に対し、読書活動の意義や学習との相関関係や家庭で児童生徒が読書の時間を持つよう習慣付けることの重要性などを紹介することもできます。





## 「読書教育の推進について」

茂原市立図書館 館長 小林 一 浩

### 新・茂原市立図書館

平成26年7月20日、茂原市立図書館は茂原駅南口駅前の商業施設6階に移転し、リニューアルオープンしました。旧図書館と比べ面積はほぼ同じですが、2フロアから1フロアになり、荷重制限により4段の低書架を採用したため、見通しがよく開放感のある館内です。ハイレゾ音源とアロマによる「音と香りの新聞・雑誌コーナー」を設置し、快適な空間作りをしました。また、本を殺菌・消毒する機器を導入し無料で利用できます。図書館ネットワークを公民館・福祉センターに広げ、市内9か所がオンラインで結ばれました。開館時間は1時間延ばし、休館日を減らし年間349日の開館日数となりました。そして、長生郡在住者への貸出しも再開しました。なお、茂原市立図書館は平成26年4月から指定管理者制度を導入し、株式会社図書館流通センターが管理・運営しています。

### 図書館とは

図書館は、社会教育法に基づき国民の教育と文化の発展に寄与する施設と図書館法に定められています。また、地方自治法が定義する「公の施設」（住民の福祉を増進させる施設）として、体育施設や福祉施設とともに教育・文化施設のひとつとして定義されています。公共図書館は「無料の原則」もあり、日本全国どこであっても自由に入館し時間を気にせず読書や調査研究を行うことができます。図書館は教育の場として、個人では所有しきれないあらゆる領域にわたる数多くの資料を配架し、資料へのアプローチを援助するために図書館員が配置されていますが、学校教育と違い教える人は存在しません。読みたい、知りたいという意志のある人だけが来館し自ら学ぶ場所です。

（もちろん障害のある人、高齢者等来館が困難な人へのアウトリーチサービスと呼ばれるサービスも図書館メニューにはあります。）

図書館関係者はいろいろなキーワードで図書館の機能やあり方を論じてきました。かつては利用者の求める本を提供すること（貸出し重視）が図書館サービスの第一義とされましたが、これは無料貸本屋として揶揄されることもありましたが、これは無料貸本屋として揶揄されることもありましたが、調査・相談を意味するレファレンスこそ大切な機能だといわれ続けていますが、その言葉は一般の人に浸透しているのでしょうか。課題解決型図書館という言葉もあります。レファレンスサービスの発展系といえば、ビジネス支援、医療情報支援、法情報支援など特化したサービスを提供する図書館があります。しかし、課題解決という言葉の響きは重々しく敷居が高いと私は感じます。貸出しもレファレンスも課題解決もすべて現在の図書館サービスの要件です。しかし、インターネットの普及により情報入手の手段は劇的に変化しています。ピンポイントの検索や最新情報を入手するなら、図書館の印刷資料よりインターネットが早くて便利です。知識の集積である図書館で重視されてきた「調べる」という機能も、利用者の選択肢の一つになっているのです。関係者がその有効性をいろいろな言葉で語っても、それが市民

一人一人に届き、便利で魅力的に映らないのであれば、選択されません。

電子書籍が普及し多くの図書館で利用できる日も遠くありません。電子書籍は端末と回線を用意すればいいのであり、図書館の図書は不要になります。そしてこれは〇〇市立図書館の蔵書というよりインターネット上のデータのひとつであると考えたほうがわかりやすいでしょう。インターネットで夏目漱石と検索すれば、夏目漱石の略歴や作品名が検索できるのと同時に、『坊ちゃん』や『こころ』といった作品が読めるのです。もちろん、著作権や料金の問題はありますが、電子書籍とはそういう性質を持っています。（実際に「青空文庫」では著作権の切れた文学作品をネット上で読むことができ、『坊ちゃん』や『こころ』も可能です。）しかし、多くの資料を調べ自分なりの考え方に至るという作業は、PCの画面や電子書籍端末より印刷物が圧倒的に有利です。

選ばれる図書館としての存続は、電子書籍を受け入れ共存し選択利用をしながら、構成要素のブラッシュアップを継続することにかかっています。利用者との会話を重視し地域を知る図書館員が選書し蔵書としていくこと。家具だけでなく、調光や彩色にも留意し快適な読書環境を作ること。さらに言えば、大学図書館で普及してきたラーニング commons の設置です。そして、幅広い知識と専門性を身につけた図書館員が、高いホスピタリティーでお客様をお迎えすることです。

### 茂原市立図書館の課題と可能性

茂原市の個人貸出登録率（図書館で本を借りるための登録）は県内の平均以下であり、これを上げる方策が求められています。小学生全員に図書館カードを配布する、広報にちらしを挟む、美術館・公民館・福祉センターなどの利用者にアピールする方法などを計画しています。新図書館移転後、入口にセンサーを設置し入館者数をカウントしています。それによると入館者数に対し貸出者数は約34%であり、閲覧や学習の利用が多いことがわかります。登録率を上げ貸出者を増やすことと同時に、居心地の良い公共空間を演出し、自然と人が集まる場をめざす知恵と工夫が必要です。

（資料の閲覧や貸出しをほとんど伴わない）高校生の学習利用が目立つのですが、学習に役立つ資料や少しだけエッジの効いたティーンズ向け資料の提供を試行中です。

「図書館は何をしてもいい」とは、私が講演で直接聞いた図書館界重鎮の言葉です。事業のことを意味しており、図書館は古今東西、神羅万象を書き記した本を置いた文化施設であるから、音楽や運動などいろいろなジャンルの事業に関連付け、実施できるということです。今後、地域の情報拠点として常識にとらわれない魅力ある事業を含めて、お客様に選んでいただける図書館にしていきたいと日々図書館員全員で試行錯誤しています。

みなさまも一度茂原市立図書館にご来館いただき、忌憚のないご意見を賜りたいと思います。





# 「読書教育の推進について」

一宮町教育委員会 図書支援員 鴫 田 朋

## 1 はじめに

昨年度より、町立の小中学校3校（一宮小・東浪見小・一宮中）で図書支援員として勤務しています。

学生時代に学校図書館司書教諭の資格を取得したものの実務経験は全くなく、先生方や図書ボランティアの方々のお力を借りながら、手探りで図書室の環境整備と読書教育の推進の支援に取り組んでいるところです。個人的な目標は、図書室を魅力ある場所にとこと、すでに本と出会っている子どもにも、これから出会う子どもにも、より多くの出会いの機会をつくることです。

## 2 主な業務内容

- 図書及び利用者のデータ管理
- 図書の管理（選書、廃棄、整備など）
- レファレンス（本の紹介、提供）
- 図書、図書室の利用指導
- 図書室の環境整備
- イベントの開催

## 3 業務内容の具体例

### (1) 環境整備

着任以来、第一に取り組んでいることが環境整備です。各学校の利用状況を見ながらより利用しやすいように分類の整理や配架の見直しをしました。

また、図書室のイメージアップを図るために、入り口にディスプレイをしています。それぞれの学校の特徴に合わせて、月ごとに季節感のある飾りつけをします。



<10月>一宮小学校



<10月>一宮中学校

同時に、室内に展示コーナーを設け、月ごとにテーマを決めて図書を紹介しています。

ニュースで話題のことごとや季節の行事、学校行事、授業内容、生活目標などと関連させて図書を選び、展示します。その際、展示図書にポップをつけたり空きスペースに季節感のある小物を配置したりすることで、子どもたちの目を引き、読書意欲を刺激する工夫をしています。

また、書架にスペースがあれば、図書を展示します。表紙が見えるだけで、子どもたちが手に取る確率が上がります。

<12月>  
一宮中学校

「限界が見えた時  
どう向き合うか」  
をテーマに。



<11月>  
一宮小学校

一宮小学校では分類  
ごとにおすすめ図書  
を展示しています。

その他に、図書室案内や新刊ポスターなども掲示しています。掲示物は内容だけでなく、見た目も工夫します。目に留まり親しみやすく、分かりやすいこと、また、そこにあることでその場所が明るい雰囲気になることを心がけて作成しています。

### (2) イベントの開催

小学校では、図書の紹介を兼ねたクイズや切り紙教室などのイベントを行います。参加者は低学年と中学年がほとんどで、イベント開催時のみ図書室を利用するという児童もいます。それでも、限られた自由時間の過ごしかたの選択肢に「図書室に行くこと」が入ることは、図書と親しむ大事な一歩だと思えます。

<10月>  
東浪見小学校

(下準備)  
折り紙に  
切り取り線  
書いておき  
ます。



## 4 おわりに

今後の課題はたくさんあります。けれども、この2年弱で図書室を取り巻く環境はだいぶ変わったように思います。エアコンの設置や図書関係予算の捻出など、町や学校の後押しの中、先生方も読書活動や学習活動で積極的に図書室を利用してくださいようになりました。このような読書教育推進に向けた取り組みの中で、私の役割は子どもたちの読書環境を整え、それらも含めた様々な提案をしていくことだと思えます。そのために、これからも日々研鑽を積んでいきたいと思えます。



# 「読み聞かせを通して絵本に親しみ 言葉に対する感覚を育む」

## 茂原市立豊岡幼稚園

### 1 はじめに

本園は3歳児27名、4歳児25名、5歳児32名、計84名の幼稚園である。教育目標として「心豊かで、自分で考えて行動しようとする子」を掲げている。

本園では、「読み聞かせ」を通して、豊かな心や想像力を育むことはもちろんのこと、皆で一緒に同じ話を集中して聞くなかで、相手の話す言葉を聞くこととする意欲や態度、言葉に対する感覚や伝えあう力を養うことを目指している。

また、絵本の世界から出発し、わらべうたや表現遊びを通し、言葉の世界を広げたり、不思議に思うことを納得のいくまで調べたり、実際に展開してみたりと体験の場も広げてきた。

### 2 実践の記録 1

#### (1) お話の楽しさを知る機会の充実

- ① 毎日の読み聞かせや絵本の時間などの充実に努める。(読み聞かせの研修等)
- ② 行事や遊びなど、子どもの興味や関心をとらえて読み聞かせの本を選ぶ。

#### (2) 読書環境の整備

- ① 子ども達が多くの本の中から、自分に合った本や心に響く本を選ぶように本棚の整理を行った。(ジャンルごとに色シールで分類、五十音別索引表の設置)
- ② 毎月、クラスの絵本コーナーに、季節や行事、発達の段階を考えた絵本の準備をする。  
年長児は文字に関心が出てくる時期に合わせて、自分で読める簡単な絵本も準備しておく。
- ③ 新しい本や季節、行事に合った本の紹介をする。

#### (3) 家庭への本の貸し出し

- ① 家庭での読書支援を図るために、絵本の貸し出しを行っている。
- ② 家庭での読み聞かせの実態や、絵本への興味関心を把握するためにアンケート調査を実施する予定である。

#### 実践の記録 2 (絵本からの発展活動)

##### ① 年少児 (3歳児)

ア 題材名 「わらべうたで遊ぼう」

イ 導入 絵本「ほねほねさんシリーズ」

ウ わらべうた 「ゆうびんはいたつ」

絵本の導入から、わらべうたへと展開する。

絵本を見て、鬼役の郵便屋さんの仕事を想像しながら輪になって遊び、言葉のやりとりを楽しむ。



##### ② 年中児 (4歳児)

ア 題材名 「作って遊ぼう」

イ 導入 絵本「おむすびころりん」

絵本「おおかみと七ひきのこやぎ」

ウ 劇遊び

内容に合った小道具を作り、役になりきって遊ぶ中で、さまざまな言葉の表現に気づく。



##### ③ 年長児 (5歳児)

ア 題材名 「行事をつくろう」

イ 導入 絵本「せつぶんはどうしてまめまぐの」

ウ 行事計画・実践

絵本の内容をヒントに、節分に必要なものを話し合ったり調べたりする。

今まで作り上げてきた「夏祭り」や「お芋レストラン」などの経験を生かし、アイデアを出しながら自分たちが中心となって「節分」という行事を作り上げていく。

(現在進行中)



### 3 おわりに

好きな絵本を何度も読んでほしいと伝えてきたり、気に入った内容の場面を言葉に出して言ってみたりと、絵本と十分触れ合っている姿が見られ、言葉に対する感覚も培われてきた。

絵本からの発展活動では、十分にイメージを膨らまし、楽しんで活動に取り組んでいる。この体験が、伝えあう力を伸ばすとともに、絵本に親しみを感じさせ、もっといろいろな絵本を見たいという気持ちを育ててきている。

「絵本が大好き」と言える子どもがますます増えるように今後も教材研究や読書に親しむ環境作りの工夫をしていきたい。

(文責 杉崎 由美)



# 平成26年度千葉県長期研修生 研究報告



## 地域の将来を考える身近な地域学習の在り方

—首都圏中央連絡自動車道（圏央道）の開通と長南町のまちづくりを通して—

長南町立長南中学校  
教諭 椎原 政文

### I 研究主題について

中学校学習指導要領社会科地理的分野の「身近な地域の調査」では「身近な地域における諸事象を取り上げ、観察や調査などの活動を行い、生徒が生活している土地に対する理解と関心を深めて地域の課題を見だし」とある。生徒が生活の舞台にしている地域に対して、地図を有効に活用して事象を説明したり、自分の解釈を加えて論述したりするなどの学習活動を充実させることが大切である。

そこで本研究では地域に対する関心を高めるために、自分たちが生活の舞台としている長南町の概要を踏まえ、長生地域や関東地方、木更津市の現状をとらえさせ、その中で道路と住民はどのように結び付いているのか。そして、どのようなまちづくりを形成しているのかという地域的特色をとらえさせることで学習活動がより高まるであろうと考えた。そこで長南町において、首都圏中央連絡自動車道（以下、圏央道）が開通したことによって町がどのように変化しているのか、これからどう有効利用していくのかなどを他の地域的特色と関連させ比較させる。また、自分たちが生活している長南町の課題を調査し、地域を活性化させるためにどのような取組を行っているかを町の代表者である議会議員や地域の人々から聞く機会を設ける



## 電流・電圧をイメージ化して思考・表現できる指導法の工夫

—モデル教材の効果的な活用を通して—

一宮町立一宮中学校  
教諭 関 智之

### I 研究主題について

単元「電流とその利用」において、電流・電圧は目に見えずイメージしにくいことから、学習内容が定着しにくいと考えられる。本研究では、モデル教材を活用した話し合い活動を通して、電流・電圧についての理解を深めさせたい。具体的には、問題解決的な学習の流れを組み、観察・実験の結果を図やグラフに表したり、モデルと比較して考えたりして、自分の言葉でまとめる活動を設定して授業を行う。そこで、電流・電圧をイメージしやすく、図や言葉での表現が図れたり、話し合い活動が促進されたりする自作モデル教材を製作し、予想や考察の場面に取り入れていく。モデル教材を効果的に取り入れて話し合うことで、多様な見方や考え方を得ることができ、電流や電圧、抵抗への考えが広がり理解が深まると考え、本主題を設定した。

### II 研究目標

電流・電圧をイメージできるモデル教材を製作し、予想や考察の場面に活用をすることで、自ら思考・表現し、電流・電圧についての理解を深められることを実践を通して明らかにする。

### III 授業の概要（第2学年 11時間扱い）

モデル教材は、目で見ることができず、イメージしにくい電流や電圧について理解するのに有効である。そこ

ことが有効であると考え。このように地域とかわかることで地域社会の形成に参画し、その発展に努力する態度を養いたい。さらに、この実践を通して、地域に対する関心を高めることにより、身近な地域の事象を自分の関心事としてとらえられるような生徒を育成できるよう、本主題を設定した。

### II 研究目標

身近な地域の調査の学習において、圏央道をいかに長南町のまちづくりを考えていくことによって地域に対する関心が高まっていく生徒が育つことを明らかにする。

### III 授業の概要（第2学年 10時間扱い）

最初に平成6年度に報告された「将来都市構造（長南愛タウン構想）」（『長南町商店街診断報告書』千葉県中小企業総合指導所1994年）と現在の長南町を比較し、現状を考察した。その後、扱う地域の特徴と課題をとらえていった。自分たちが生活の舞台としている長南町から扱う地域を広げた長生地域。東京湾アクアラインの料金引き下げ実験により交通量が増え、それに伴い人口を増加していった木更津市。圏央道が通っている関東地方。様々な地域で道路と住民はどのように結び付いているのか。そして、どのようなまちづくりを形成しているのかをとらえ、長南町の活性化案を考えていった。将来に向けてどのような取組を行っていくかを具体的に考え、町の代表者である議会議員に対して発表する機会を設けた。このように地域とかわかることで地域社会の形成に参画し、身近な地域の事象を自分の関心事としてとらえる生徒を育成できることをねらいとした。

で、自作モデル教材の水流モデルと抵抗モデルを予想と考察の場面に活用するとともに、班の話し合い活動を取り入れて学習を進めた。

#### 1 水流モデルの活用

直列回路における電流・電圧の特徴を考察する場面に水流モデルを取り入れ、モデルを組み立てながら、測定結果と関連付けて考察させた。次時の並列回路における電流・電圧の特徴を調べる学習では、予想の場面から水流モデルを取り入れ、モデルを並列回路に組み立てながら、前時の学習を基に予想させた。このことで、生徒は根拠をもって予想することができ、目的意識をもって実験に取り組むことができた。考察の場面では、直列回路の場合と同様に測定結果と電流・電圧のイメージを併せて考えさせた。

#### 2 抵抗モデルの活用

電熱線の発熱のしくみについて、抵抗モデルを組み立てながら、ビー玉や鈴などの部品が電熱線内部の何を表しているのか、どのようになると発熱するのか、などを考えさせた。次時の電熱線の発熱と抵抗の大きさの学習では、抵抗モデルの太さや長さを変えながら、前時の学習を基に電熱線の太さや長さなどに着目して予想させた。モデル実験を通して導き出した各班の予想については、屋台村方式による発表を行った。最後に、電熱線の条件や電圧を変えた場合の検証実験を行い、電熱線の発熱と抵抗の大きさについて考察させた。

その結果、①水流モデルや抵抗モデルを予想や考察の場面に活用していくことで、電流・電圧、発熱をイメージして実験に取り組み、結果や考察について自分の考えを自分の言葉で書ける生徒が増えた。②電熱線の発熱と抵抗の大きさの学習では、抵抗モデルを用いて班ごとに思考・表現させることで、電熱線の発熱に関する理解が深まった。



## 各種研修を終えて

### (スクールリーダー研修会) スクールリーダー研修を終えて

睦沢町立睦沢中学校  
教諭 白土 俊幸

ふと気付くと、13年目が終わろうとしている。「スクールリーダー」のお話を頂いたのは2年前、本校に赴任して来たときである。なるほど、「年齢的にも中堅になり、諸先輩方に続き、後輩を牽引していく立場になったのか」と、感じたのを記憶している。

本研修の内容は、教育の現代課題から始まり、教育法規、授業力向上、会計管理、特別支援、健康・安全教育、キャリア教育、モラルアップ等々、多岐にわたった。研修を受けるたびに自分の未熟さを痛感した。と同時に、どの内容も学校運営には必要不可欠であり、その一つひとつを学ぶことで、自分の視野を広げて行きたいとも考えた。

まずは実践。今年度から校内のモラルアップ委員長という立場になった。「モラルとは」から始まり、年間計画の作成、課題を見つけるためにアンケート、校内研修の充実、イベントの実施、若手教職員と一緒に話し合い、様々な事にチャレンジした。実際の所、どの程度の成果が得られたのかは分からないが、ひとつ言えることは自身の「自覚」が高まったのは確かである。この自覚が芽生えたことが、本研修で得た成果の1つではないだろうか。

最後に、ご指導頂いた講師の先生方、2年間共に受講してきた22名の先生方に感謝申し上げます。

### (10年経験者研修) 10年目の課題

長柄町立日吉小学校  
教諭 佐藤 陽子

教壇に立った日から、「子どもとともに歩む教師でありたい」と夢中で走り続けてきました。10年経験者研修を受講する今年は、「今までの指導方法だけでは通用しない」という思いを抱えていました。「子どもたち一人一人をのばすために、自分に足りないものはなんだろう」と課題を持って研修をスタートしました。

研修会では、教員としての倫理観や校内研修とのかかわり方、校務を推進する企画力など、中堅教員として果たさなければならない役割について自覚を促されました。

夏休みには、少人数で道徳の模擬授業を作り上げたり、教科について実践したことをもとに成果や課題について話し合ったりしました。事例研究では、講師の先生方や研修を受ける仲間から、今抱えてる問題の糸口をたくさん得ることができました。

異校種体験研修でお世話になったマリア幼稚園では、幼稚園の先生方が子どもの主体性を大切にされていることを改めて知り、子どもたちの接し方を見つめ直すきっかけとなりました。

研修を終えた今、教員としての自覚を新たに、自らの専門性を高めていくと共に、10年目を終えた教師として、学校の中での役割を理解し、どう果たしていくか考えていきたいと思っています。

## 家庭学習の実態・意識に関する調査研究開始

全国学力・学習状況調査について国における分析結果から、家庭学習をしている児童生徒ほど国語、算数とも正答率が高い傾向がある・家で計画を立てて勉強をしている児童生徒ほど正答率が高い傾向が見られる等、家庭での学習の重要性が見えます。そこでこの度、調査部では、平成26・27年度で、「家庭学習の実態・意識」について調査研究をしていくこととなりました。来年度末に紀要として提案する予定です。子どもたちの学習習慣を確立するための一助として、ぜひ、ご活用いただければ幸いです。



## 各種研修を終えて

(5年経験者研修)

### 5年経験者研修を終えて

茂原市立東部小学校  
教諭 渡邊 幸久

教員生活も6年目を迎え、日々先輩方から助言や指導を頂きながら授業や生活指導に取り組んでいます。しかし、至らない点も多く、まだまだ力量不足の私にとっては、本研修は指導力の向上を図る上で、とても有意義なものとなりました。

研修ではまず、教員としてのモラル向上のために、電話の受け答えや保護者との接し方など様々な状況に応じた対応の仕方について学び、社会人として大切なマナーを再確認することができました。次に、国語科の指導においては言語活動を充実させるために教師がおさえておくべきことや課題解決を意図した授業づくりの視点など、実践的な内容を学ぶことができました。研究協議では、同期の先生方と、学校で実践していることや様々な場面での悩みなどを共有することができ、多くの交流を図ることができました。同期の先生方の取り組みや実践を聞き、私もより一層情熱を持って取り組もうという意欲が湧き、大変良い刺激になりました。

この1年は、今まで自分が行ってきた指導法や授業について振り返り、課題を見つけることができる素晴らしい機会を与えていただきました。本研修を通して学んだことを日々の授業や指導法に生かしながら頑張っていきたいと思います。

(初任者研修)

### 1年目を振り返って

茂原市立萩原小学校  
教諭 堀口 佳央梨

教員になりもうすぐ一年が経ちます。一年前の私は、期待や楽しみよりも、漠然とした不安ばかりがありました。しかしこの一年の研修を通して不安の解決への糸口を見つけることができました。

研修では、生徒指導や教材研究の方法、道徳教育、教員としてあるべき姿など幅広く学ぶことができました。特に特別支援学校での研修では、いつもとは違う視点から気付くことが多く、子どもを「認める」こと、子どもの行動を良い、悪いで評価するのではなくその理由に踏み込み、「なぜ」その行動をするのかという根本を考えることの大切さについて学ぶことができました。自分の教育実践を振り返り、考え直す良い機会となりました。校内研修では、学級の実態をふまえた充実した研修ができました。今の自分のクラスにはどのような手立てが必要か、また、そのために自分には何が必要なのかが分かり、とても勉強になりました。

また、校外研修では、大切な仲間に出会うことができました。仲間から学ぶことも多く、良きライバルとして負けたくないという気持ちも湧きました。

この一年の積み重ねを大切にし、これからも子どもを第一に考え、精一杯子どもと向き合っていくことができる教員を目指し、成長していきたいと思います。

## 教育功労表彰

### ○文部科学大臣地方教育行政功労者表彰

長南町教育長 片岡 義之

### ○県教育功労者表彰

〈個人の部〉

茂原市立茂原小学校 校長 内田 達也  
長柄町立日吉小学校 校長 若菜 秀則  
茂原市立茂原中学校 校長 鳥海 和之  
長生村教育委員会教育委員長 植草 清

〈団体の部〉

白子町立南白亀小学校

掲載順につきましては、順不同とさせていただきます。

(敬称略)

### ○長生地区市町村教育委員会連絡協議会表彰

長南町立長南小学校 校長 小関 英司  
長南町立長南中学校 校長 栗原 政賢  
長柄町立長柄中学校 校長 鶴澤 亨  
睦沢町立睦沢中学校 校長 佐藤 秀雄  
一宮町立東浪見小学校 校長 渡邊 亮一

### ○長南町教育功労者表彰

長南町立西小学校 教諭 岡本 国夫

### ○地方教育行政功労者表彰

長南町教育長 片岡 義之